

改訂新版

APGⅢ対応

# 日本の野生植物

Wild Flowers of Japan

全5巻 + 総索引(別冊)

平凡社

◎監修 大橋広好/門田裕一/邑田仁/米倉浩司 ◎写真 木原 浩ほか



2015年12月  
刊行開始

シリーズ累計30万部突破。  
新分類による大改訂!

旧版掲載の写真ではなく新規写真で構成。各巻平均1000点以上の写真を収載。南西諸島や小笠原諸島の植物写真を積極的に扱う。



1. イチョウ *Ginkgo biloba* 新宿区 04.11.30 (木原)→0.23



2. イチョウ きんなん 小石川植物園 97.9.27 (木原)



3. イチョウ 雄花 新宿区 97.4.19 (木原)



4. イチョウ 雄花 奥多摩町 82.5.6 (木原)



5. イチョウ 気根 小石川植物園 97.4.29 (木原)

PL.2 | イチョウ科 GINKGOACEAE

## 監修のことば

佐竹義輔他(編集)『日本の野生植物 草本』は1982年、『同 木本』は1989年に出版された。その当時の日本に知られていた野生種子植物をほぼ網羅して、特徴的な生態写真とともに簡潔に記述したものであった。同書は日本の標準的植物誌として評価され、今日まで広く受け容れられている。しかし、刊行後ほぼ30年が経っている。この間に新しい分類体系が生まれ、多くの属や種の学名が変更され、多数の新種も発見された。そのため、同書の改訂が切望されていた。

今回の改訂では現行版を基礎としつつ、写真を更新し、草本編・木本編の区分を廃止して、被子植物の新分類体系APGⅢで配列した。約50名の植物分類学者が協力し、新科の追加、全面改稿された科、属や種の学名と記述の修正、新植物の追加、南西諸島と小笠原諸島の種類の充実など、大幅な更新と増補をおこなった。この改訂新版は日本の全種子植物をまとめた最新の植物誌であり、植物研究者のみならず、自然保護や環境問題に関わる方々、植物愛好家などの座右に置き、また各地の自然保護関係機関などでも役立ててほしいと願っている。

大橋広好(東北大学名誉教授)



1. オガタノキ *Magnolia compressa*  
調布市 02.11 (大原)→p.71



2. オガタノキ 東京  
稲城市 02.11 (大原)  
3. タイサンボク 東京  
新大塚 76.10.11 (大原)



4. タイワンオガタノキ *Magnolia compressa* var. *formosana*  
浜島島 12.29 (大原)→p.71



6. タイサンボク  
新大塚 76.6.7 (大原)



5. タイサンボク *Magnolia grandiflora*  
新大塚 96.6.27 (大原)→p.71

MAGNOLIACEAE モウレン



旧版の分類との違いを明記し、  
検索表も新たに作りなおした。  
学名は主な異名(シノニム)もな  
るべく記載。項目(種)解説およ  
び解説中各巻平均1300の植  
物について言及。

## ◎改訂のねらい

[草本編][木本編]の区別をなくし、科の配列をAPGⅢの分類体系に統一したうえで、旧版の解説を一部生かしながら大幅に改訂・増補。日本の種子植物をまとめた最新の植物誌を目指す。

## ◎7大特色

1. 被子植物の新しい系統分類体系APGⅢを採用。
2. 属の検索表、種の検索表を一新。
3. 旧版の知見をもとに、新しい情報を付加。
4. 南西諸島、小笠原諸島の植物にも重点を置く。
5. 帰化植物、外来植物にも配慮した解説。
6. 美しい新写真によるカラーページ増補。
7. 充実した総索引(別冊)により  
レファレンス性がさらに向上。

## マキ科 PODOCARPACEAE

大橋 宏好

常緑の高木または低木。葉は線形、披針形、楕円形、まれに鱗片状で、らせん状に互生、ときに十字対生する。まれに枝が扁平に変形して、葉に似た外観を呈する。雌雄異株まれに同株。雄花は小枝に頂生または腋生し、花輪に多数の雄蕊がつき、雄蕊には2個の葯室があり、花粉に気嚢がある。雌花は前年枝の葉腋につき、1ないし多数の雌鱗片がある。雌鱗片はらせん状に互生するかまたは十字対生、あるいは輪生し、そのおきに1個の側生胚珠がつく。球果1個の胚珠と種子鱗片よりなる。種子は鱗片が発達して変形した套皮(とうひ)に包まれ、球形~卵形で核果腺。子葉は2個。マキ科はマツ亜綱(球果綱)ナリヨウスギ目に分類される。世界に19属約180種が知られ、主として南半球の熱帯、亜熱帯、暖帯にあり、熱帯アフリカの山地、中央アメリカ、東南アジア、インド、中国および日本にまで分布を拡げている。

- A. 葉は対生し、葉身は卵形~長楕円状披針形で中央脈がなく、平行脈がある。種子が熟しても花托は肥厚しない——【1】ナギ属 *Nageia*  
A. 葉は互生し、葉身は広線形で明らかな中央脈がある。種子が熟すと花托が肥厚して肉質になる——【2】マキ属 *Podocarpus*

### 【1】ナギ属 *Nageia* Gaertn.

常緑の直立高木。雌雄異株。まれに雌雄同株。葉はらせん状で互生または十字対生につき、葉柄は枝に対して90度ねじれている。葉身は広卵形から楕円形。基部で二又分枝した多数の細い平行脈があり、中央脈がない。雄花は有柄、葉腋に単生または東生し、苞輪に2個の葯がある。雌花は有柄、葉腋に単生または2個つき、側生胚珠がある。種鱗片は種子を包み、肉質。種子は球形。東南アジア、インド、中国および日本に5~7種が知られている。日本に1種がある。ナギ属はマキ属に含められ、節 (*Sect. Nageia*) として認められていたが、葉はマキ科の中で唯一多数の平行脈をもつことなどに基づいて1987年に独立属として復活し、のちの分子系統解析でも支持された。

1. ナギ *Nageia nagi* (Thunb.) Kuntze; *Podocarpus nagi* (Thunb.) Makino  
PL 31-1~5  
幹は高さ約20m、径50~80cmになる。樹皮は平滑で、黒褐色~灰黒色。浅い鱗片状にはがれる。葉は対生し、革質、卵形~長楕円状披針形で、外見針葉樹の仲間と思えない形をとり、全縁で長さ4~8cm、幅1~3cm、細い平行脈があり、表面は深緑色で光沢があり、裏面はやや白色をおびる。花は5~6月。雄花は円柱状で数個葉腋に東生し、雄蕊に2個の葯室がある。雌花は葉腋に単生し、数個の鱗片と1個の側生胚珠がある。種

子は10月に熟し、白緑色に肥厚した鱗片(套皮)に包まれ、球形で径10~15mmある。花托は肥厚しない。染色体数2n=26, (2n)。本州(三重県・和歌山県・山口県)・四国・九州・琉球、台湾に分布する。暖地では庭木として植えられ、また神木として神社の境内によく植えられる。山口県の《小郡町ナギ自生地(北限地帯)》、奈良市の《春日神社境内ナギ樹林》、和歌山県新宮市《熊野速玉神社のナギ》の天然記念物として保護されている。材は年輪が不明瞭で、黄褐色で緻密。家具、器具、彫刻などに用いられる。

## ◎各巻構成(判型:四六倍判)



**第1巻**  
**ソテツ科~カヤツリグサ科**  
704頁(カラー272頁)  
刊行記念特価: 本体20,000円+税  
(2016年3月31日まで)。以降、本体24,000円+税)  
2015年12月上旬刊行



**第2巻**  
**イネ科~ヒメハギ科**  
640頁(カラー256頁)  
本体22,000円+税  
2016年2月下旬刊行予定



**第3巻**  
**バラ科~センダングサ科**  
640頁(カラー256頁)  
本体22,000円+税  
2016年4月下旬刊行予定



**第4巻**  
**アオイ科~キョウチクトウ科**  
640頁(カラー256頁)  
本体22,000円+税  
以下、順次刊行



**第5巻**  
**ヒルガオ科~スイカズラ科**  
704頁(カラー272頁)+総索引(別冊)  
本体24,000円+税

2016年夏、完結!

### APGⅢとは

DNA解析にもとづく新しい分類体系。被子植物系統研究グループ(Angiosperm Phylogeny Group)の略称。分子系統学の実現にともない、形態にもとづく旧来のエンクラータ体系やクロンキスト体系に代わって、APG体系が主流となった。1998年のAPG Iからはじまり、現在は2009年のAPGⅢに改定されている。国立科学博物館植物標本館では、標本の配置をすでにAPGⅢに移行している。

種子植物の系統関係と全5巻の構成

- ソテツ目 Cycadales [ソテツ科, サミア科]
- イチョウ目 Ginkgoales [イチョウ科]
- グネツム目 Gnetales [ウエルウィッチア科, グネツム科, マオウ科]
- マツ目 Pinales [マツ科]
- ナンヨウスギ目 Araucariales [ナンヨウスギ科, マキ科]
- ヒノキ目 Cupressales [コウヤマキ科, ヒノキ科, イチイ科]

裸子植物  
Gymnosperms

※太字は本書で取り上げているものです

-----被子植物 Angiosperms-----

- アンボレラ目 Amborellales [アンボレラ科]
- スイレン目 Nymphaeales [ジュンサイ科, スイレン科]
- アウストロバイレイ目 [シキ目] Austrobaileyales [マツバサ科]
- センリョウ目 Chloranthales [センリョウ科]
- カネラ目 Canellales [カネラ科]
- コショウ目 Piperales [ドクダミ科, コショウ科, ウマノズクサ科]
- モクレン目 Magnoliales [ニクズク科, モクレン科, ハレンシシ科]
- クスノキ目 Laurales [ロウバイ科, ハスノハギリ科, クスノキ科]

モクレン類  
Magnoliids

- ショウブ目 Acorales [ショウブ科]
- オモダカ目 Alismatales [サトイモ科, チシマゼキショウ科, オモダカ科, ハナノ科, トチカガミ科, ホロムイソ科, レースソウ科, シバナ科, アマモ科, ヒルムシロ科, カワツルモ科, ペニアマモ科 [シオニラ科]]
- サクライソウ目 Petrosaviales [サクライソウ科]
- ヤマノイモ目 Dioscoreales [キンコウカ科, タシロイモ科, タスキノショクダイ科, ヒナノジャクショウ科, ヤマノイモ科]
- タノキ目 Pandanales [ホンゴウソウ科, ビックア科, パナツコ科]
- ユリ目 Liliales [シムロウ科, ユリスイセン科, イヌサフラン科, フィレンシア科, サルトリイバラ科, ユリ科]
- クサシギカラ目 [キジカクシ目] Asparagales [ラン科, キンバイザサ科, アヤメ科, ススキノキ科, ヒガンノバナ科, クサシギカラ科 [キジカクシ科]]

単子葉類  
monocots

- ヤシ目 Arecales [ヤシ科]
- ツクサ目 Commelinales [ツクサ科, タヌキアヤメ科, ミズアオイ科, ハエモドムル科]
- ツクサ目 Zingiberales [ゴクラクチョウカ科, オウムバナ科, パショウ科, カナン科, アスウコン科, オオホザキアヤメ科, ショウガ科]
- イネ目 Poales [ガマ科, バイオレット科, トウエンソウ科, ホシクサ科, イグサ科, カヤツリグサ科, サツソウ科, トウツルモドキ科, イネ科]

ツクサ科類  
Comnelinids

- マツモ目 Ceratophyllales [マツモ科]
- キンボウゲ目 Ranunculales [フサザクラ科, ケシ科, アケビ科, ツツラフジ科, メギ科, キンボウゲ科]
- アワブキ目 Sabiales [アワブキ科]
- ヤマモガシ目 Proteales [ハス科, スズカネノキ科, ヤマモガシ科]
- ヤマグルマ目 Trochodendrales [ヤマグルマ科]
- ツゲ目 Buxales [ツゲ科]
- グンネラ目 Gunnerales [グンネラ科]
- ユキノシタ目 Saxifragales [ボタン科, フウ科, マンサク科, カツラ科, ユズリハ科, スイナ科, スグリ科, ユキノシタ科, ベンケイソウ科, タクノアシ科, アリノトウガ科]

第1巻

第2巻

- ブドウ目 Vitales [ブドウ科]
- ハマビシ目 Zygophyllales [ハマビシ科]
- マメ目 Fabales [マメ科, ヒメハギ科]
- バラ目 Rosales [グミ科, クロウメドキ科, ニレ科, アサ科, クワ科, イラクサ科]

- ブナ目 Fagales [ナンキョクブナ科, ブナ科, ヤマモモ科, クルミ科, モクマオウ科, カバノキ科]
- ウリ目 Cucurbitales [ドクツツギ科, ウリ科, シュウカイドウ科]
- ニシキギ目 Celastrales [ニシキギ科]
- カタバミ目 Oxalidales [マメドキ科, カタバミ科, ホルトノキ科, フクロユキノシタ科]
- キントランオ目 Malpighiales [ヒルギ科, コカノキ科, ラフレシア科, トウダイグサ科, ミカンソウ科, ミゾハコベ科, キントランノ科, ツゲモドキ科, トダイソウ科, ヤナギ科, スミレ科, アカイコ科, アマ科, テリハハク科, フクギ科, カワゴケソウ科, オトギリソウ科]

バラ類  
rosids

第3巻

- フウソウ目 Geraniales [フウソウ科]
- フトモモ目 Myrtales [シクンソウ科, ミソハギ科, アカバナ科, フトモモ科, ノボタン科]
- クロソウ目 [ミツバウツギ目] Crossosomatales [ミツバウツギ科, キブシ科]
- ムクロジ目 Sapindales [カンラン科, ウルシ科, ムクロジ科, ミカン科, ニガキ科, センダン科]
- フェルテア目 Huerteales [ティンペンソンドン科]
- アオイ目 Malvales [ナンヨウザクラ科, アオイ科, ジンチョウゲ科, ペニノキ科, ハンニチバナ科, フタバガキ科]
- アブラナ目 Brassicales [ノウゼンハレン科, ワサビノキ科, バイイヤ科, モクセイソウ科, フウチョウボク科, フウチョウソウ科, アブラナ科]

マメ類 fabids  
(真正バラ類 1  
eurosids 1)

アオイ類 malvids  
(真正バラ類 2  
eurosids 2)

- ビワモドキ目 Dilleniales [ビワモドキ科]
- ジャクダン目 Santalales [ツトリモチ科, ハマナツメドキ科, オラクス科, カナビキボク科, ジャクダン科, オハヤドリギ科, ボロボロノキ科]
- ナデシコ目 Caryophyllales [ギョリュウ科, イソマツ科, タデ科, モウセンゴケ科, ウツボカズラ科, ナデシコ科, ヒユ科, ハミズナ科, ヤマゴボウ科, オシロイバナ科, サクソウ科, ヌマハコベ科, ツルムラサキ科, ハゼラン科, スベリヒユ科, サボテン科]

第4巻

- ミスキ目 Cornales [ミスキ科, アジサイ科]
- ツツジ目 Ericales [ツツジソウ科, ハシジボ科, サガリバナ科, ペンタフィラス科, アカツツ科, カキノ科, サクラソウ科, ツバキ科, ハイノキ科, イウモメ科, エゴノキ科, サラセニア科, マタタビ科, リョウブ科, ヤッコソウ科, ツツジ科]

- (クロタキカズラ目 [Icinales] [クロタキカズラ科])
- ガリア目 Garryales [トリュウ科, ガリア科]
- リンドウ目 Gentianales [アカネ科, リンドウ科, マチソ科, ガルゼミウム科, キョウチクトウ科]
- ナス目 Solanales [ヒルガオ科, ナス科, ナガボノマルソウ科, セイロシハコベ科]
- ムラサキ目 Boraginales [ムラサキ科]
- シソ目 Lamiales [シソ科, キンギョクソウ科, イワタバコ科, オオハコ科, コウゴクハクサ科, アゼナ科, コマ科, シソ科, サゴケ科, ハエドクソウ科, キリ科, ジオウ科, ハマツツボ科, タヌキモ科, キツネノマゴ科, ノウゼンカズラ科, カマツツボ科, ツノコマ科]

シソ類  
lamids  
(真正キク類 1  
euasterids 1)

- モチノキ目 Aquifoliales [ステモヌス科, ヤマイモドキ科, ハナイカダ科, モチノキ科]
- キク目 Asterales [キキョウ科, ミツガシウ科, クサトベラ科, キク科]
- セリ目 Apiales [トベラ科, ウコギ科, セリ科]
- マツムシソウ目 Dipsacales [レンブソウ科, スイカズラ科]

キキョウ類  
campanulids  
(真正キク類 2  
euasterids 2)

第5巻



●表記内容は2015年9月現在のもの。各巻の構成は変更の可能性がありす。



# 最高の執筆陣、 写真家による 最新の日本の植物図鑑、 ついに刊行!

旧版『日本の野生植物』草本編の刊行から33年、木本編は26年が経過しました。この間に植物の分類体系は大きく変わり、新植物の発見や記載の修正などもおこなわれてきました。この改訂新版では、旧版の解説を一部生かしながら大幅に改訂・増補し、分類体系も新しい被子植物の系統分類体系APGⅢを採用しました。

本書が植物研究者のみならず、植物愛好家、園芸家、自然保護や環境問題に関わる方々などに役立つことを願っています。

- ◎四六倍判／クローズ装／函入り
- ◎約4400項目・約6800の植物を記述(旧版は約6300)
- ◎掲載写真数は各巻1000点以上

## 平凡社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-29  
TEL: 03-3230-6574 / FAX: 03-3230-6588  
URL: <http://www.heibonsha.co.jp/>

監修◎大橋広好(東北大学名誉教授)  
門田裕一(国立科学博物館名誉研究員)  
邑田仁(東京大学教授)  
米倉浩司(東北大学助教)  
写真◎木原 浩(植物写真家)ほか  
執筆◎東 浩司(京都大学) (50音順)  
五百川 裕(上越教育大学)  
池谷祐幸(食品産業技術総合研究機構 果樹研究所)  
池田 博(東京大学)  
伊藤元己(東京大学)  
伊藤 俊(中国科学院西双版纳热带植物园)  
茨木 靖(徳島県立博物館)  
遠藤泰彦(茨城大学)  
大橋広好(東北大学)  
大場秀章(東京大学)  
岡崎純子(大阪教育大学)  
奥山雄大(国立科学博物館)  
勝木俊雄(森林総合研究所 多摩森林科学園)  
勝山輝男(神奈川県立生命の星・地球博物館)  
加藤雅啓(国立科学博物館)  
門田裕一(国立科学博物館)  
倉重祐二(新潟県立植物園)  
黒沢高秀(福島大学)  
國府方吾郎(国立科学博物館)  
木場美久(筑波大学)  
佐藤広行(北海道大学)  
志賀 隆(新潟大学)  
菅原 隆(首都大学東京)  
瀬戸川浩彰(京都大学)  
湖島顕子(熊本大学)  
高橋英樹(北海道大学)  
高橋 弘(岐阜大学)  
立石庸一(琉球大学)  
田中伸幸(国立科学博物館)  
田中法生(国立科学博物館)  
田村 実(京都大学)  
寺林 進(横浜薬科大学)  
東馬智雄(東京大学)  
内貫章史(琉球大学熱帯生物圏研究センター)  
中井秀樹(博士(理学))  
中田政司(富山県中央植物園)  
永益英敏(京都大学)  
根本智行(石巻専修大学)  
能城修一(森林総合研究所)  
早坂英介(越前町立福井総合植物園)  
福原達人(福岡教育大学)  
藤井紀行(熊本大学)  
布施静香(京都大学)  
宮本句子(鹿児島大学)  
宮本 太(東京農業大学)  
邑田仁(東京大学)  
山城 考(徳島大学)  
遊川知久(国立科学博物館)  
米倉浩司(東北大学)

申込書

書店印

## 改訂新版 日本の野生植物 第1巻 ソテツ科〜カヤツリグサ科

ISBN978-4-582-53531-0

刊行記念特価  
本体20,000円+税  
(2016年3月31日まで以降、  
本体24,000円+税)

### 第2巻

イネ科〜ヒメハギ科  
本体22,000円+税  
ISBN978-4-582-53532-7

冊

### 第4巻

アオイ科〜キュウナクワ科  
本体22,000円+税  
ISBN978-4-582-53534-1

冊

### 第3巻

バラ科〜センダングラ科  
本体22,000円+税  
ISBN978-4-582-53533-4

冊

### 第5巻

ヒルガオ科〜スイカズラ科 + 総索引  
本体24,000円+税  
ISBN978-4-582-53535-8 (分売不可)

冊